



インド 1000万人デモ 農業法撤廃求める 首都ではトラクターデモ

インドの共和国記念日の26日、モディ政権が昨年9月に導入した農業法の撤廃を求める農民らが首都ニューデリーでトラクターデモを実施しました。農民団体によると南部や東部を含む全国各地でこの日街頭デモが行われ、1000万人が参加しました。（伊藤寿庸）

この日は、政府主催の共和国記念日のパレードを妨害しないことを条件に、のべ約63キロの三つのルートで市内でのトラクターデモが許可されました。

農民団体は、農業分野の規制緩和を行う農業法が、農産物の買いたたきを招き、農家の経営を脅かすとして、完全撤廃を求めてきました。11月26日に首都での集会を目指して周辺の州から集まった農民は、首都中心部への立ち入りを阻まれ、2カ月にわたってデリー首都圏の州境で泊まり込みの抗議行動を続けてきました。

これまで政府との間で11回の交渉を実施。政府は、1年半は法律の施行を停止することなどを提示しましたが、農民団体の大多数は拒否。厳しい寒さの中ですでに100人以上の農民が命を失いました。政府・与党はマスコミを使って、農民の抗議行動を「反国家的」「過激な反社会分子」「一部の富裕農民の運動」と呼ぶなど、中傷と分断を図ってきました。

この日は、一部のデモがルートをそれて市の中心部に向かい、警官隊と衝突。警察は催涙ガスと警棒による殴打で対応し、内務省は一部地域のインターネットの遮断などを行いました。

農民団体は、農民の大義を傷つけることを狙ったものだ、と暴力を非難。野党は、政府のこれまでの対応に問題があると指摘しました。

西ベンガル州のママタ・バナジー州首相は「中央政府の無神経な態度と農民への無関心に責任がある」と指摘。インド共産党（マルクス主義）のシタラム・イエチュリ書記長は、「農民は60日以上デリーに入ることができず州境で平和的デモを続け、100人以上の農民の死者が出た。今回の状況はモディ政権がつくり出したものだ」と批判しました。野党は、29日から始まる予算審議のための議会で政府の対応を迫っていく構えです。

しんぶん赤旗 電子版 2021年1月28日【国際】